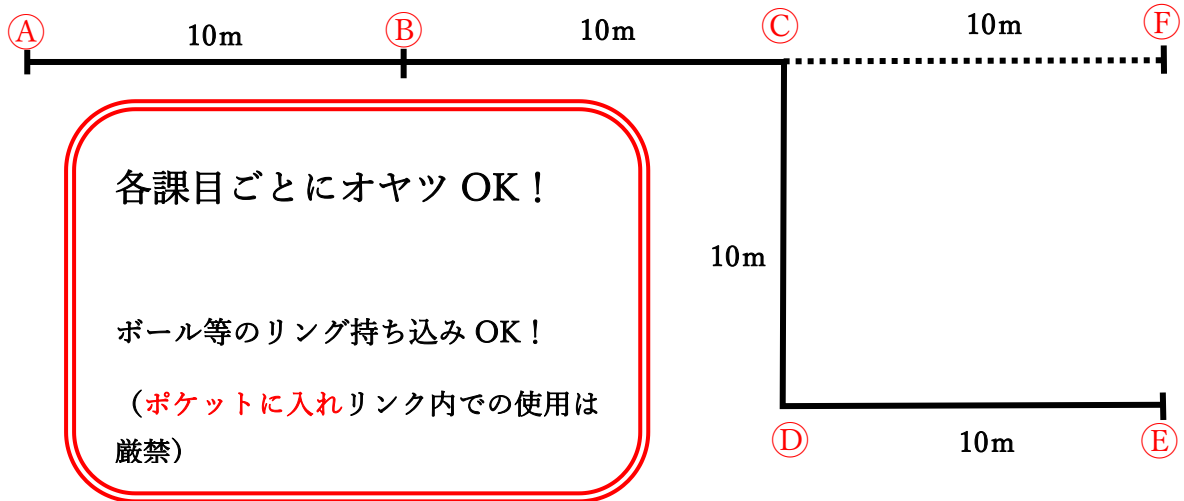


2022mayor`s cup 服従競技規定 (ビギナー)

服従のコースはクランク型とし図のような配置となる。尚全課目紐無し作業とする。

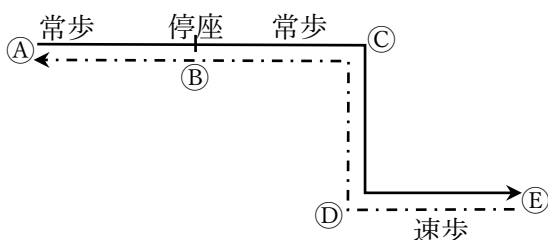


1. 指示無し停座を含む紐無し脚側行進①②③④⑤ (往路常歩復路速歩)
2. 脚側行進及び立止又は脚側行進中立止
3. 脚側行進中停座及び 10m の招呼
4. 伏臥及び 30m の招呼
5. 対面しての 10 秒間の立止または 30 秒間の停座または 1 分間の伏臥

コースは白線等で記されるものとし、各ポイント間は 10m とする。

脚側行進のライン及び停止位置についての印はあくまでも作業上の目印とし、そこから少し(1m以内)ずれるのは構わない。第 5 課目の姿勢は最初に申告し競技を始める。

1. 指示無し停座を含む紐無し脚側行進 (往路常歩復路速歩)

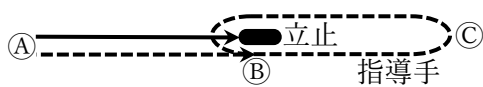


指導手は審査員に申告後①で②に向けて脚側停座させ紐を外し待機する。紐は申告後①で停座させる前に外しても構わない。①より審査員の指示により常歩で脚側行進し②で脚側停座させる。この時指導手の指示無く停座することが望ましく 1 声視符は最低限の減点がある。この時犬を褒める事は許されるが犬は姿勢を変えるべきではない。再び審査員の指示により②から常歩で脚側行進を開始し③④を経由し⑤でターン、自主的に座らせることなく速歩で④③を経由し①でターンし脚側停座させ審査員の指示で終わる。①でターンした後、2 歩まで前に進むのは構わない。声視符は出発、各屈折、ターンで 1 声視

符許されるが途中の声視符多用は減点となる。各ターンはドイツ式左回転ターン・左ターン・右ターンいずれも許される。ターンは U ターンではなく来た道を帰る形 I ターン(指導手はその場で回転)が理想とする。

※終了の脚側停座後軽い褒めと一度おやつをあげる事が許される。但し、おやつは犬の反対側のポケットに入れ、審査員の終了の合図があつてから取り出す。褒めは最短の時間で終了すべきでおやつを使って追加の課目を実行することは許されない。犬を褒めるにあたり、股くぐりや飛び上がらせ等の大きなアクションは好ましくない。ボールおもちゃ等を見せたり使うことは許されないし獲得した得点を失う。

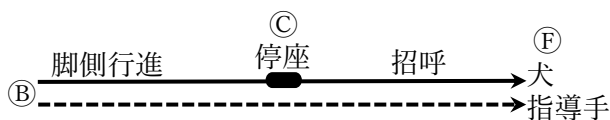
2. 脚側行進及び立止、又は脚側行進中立止



指導手は審査員の指示により①から常歩脚側行進し②で立止をさせる。この時指導手は止まってもよく(脚側行進及び立止)その場合姿勢の指示ととどまる為の指示の2度の声視符が許される。指導手は止まらず立止(行進中立止)を行う場合は1声視符とする。指導手は自主的に③に向かい対面する。対面後審査員の指示により犬の元へ戻り、審査員の指示により脚側停座させ審査員の指示により終了する。

※第1課目紐無し脚側行進同様作業後一度褒める(おやつ在り)ことは許される。

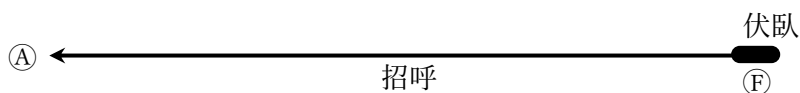
3. 行進中停座及び10mの招呼



審査員の指示により②から常歩脚側行進し③にて犬に停座をさせ指導手は止まることなく④に向かい対面する。審査員の指示により犬を招呼し脚側停座させる。この時犬は正面で停座させても直接脚側へ付けてもどちらでもかまわないし、前面停座後指導手が審査員の指示なく自主的に犬に指示して構わない。脚側停座させたのち審査員の指示で終了する。

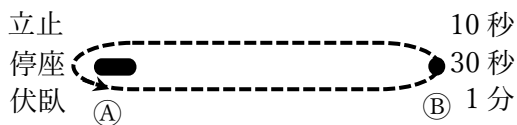
※第1課目紐無し脚側行進同様作業後一度褒める(おやつ在り)ことは許される。

4. 伏臥及び30mの招呼



④で審査員の指示により犬を伏せさせ審査員の指示で指導手は①に行き対面する。審査員の指示により犬を招呼し脚側停座させる。この時犬は正面で停座させても直接脚側へ付けてもどちらでもかまわないし、前面停座後指導手が自主的に犬に指示して構わない。脚側停座させたのち審査員の指示で終了する。※第1課目紐無し脚側行進同様作業後一度褒める(おやつ在り)ことは許される。

5. 対面しての 10 秒間の立止または 30 秒間の停座または 1 分間の伏臥



脚側停座から審査員の指示で①にて立止または停座または伏臥させ、自主的に②に向かい対面する。対面後立止させた場合は 10 秒後、停座させた場合は 30 秒後、伏臥させた場合は 1 分後審査員の指示で犬の元へ戻り、審査員の指示で脚側停座させ審査員の指示で終了する。時間は対面後から計測される。

※第 1 課目紐無し脚側行進同様作業後一度褒める(おやつ在り)ことは許される。

【各課目共通の規定】

○各作業の動きや反応のスピードが採点に影響されるが、明るく楽しく演技することを理想とし採点は犬種の特徴が加味される。

○リンク内におやつ等を持ち込むことは許されるが犬の反対側のポケットに入れておく必要がある。おやつをあげるタイミングは各作業の終了時の一度のみとし課目最後の脚側停座の終了後ポケットから取り出す事とする。

○ポシェット、訓練カバン等衣服でない物 (巻きスカートのようなもの含む) を付けて競技に臨むことはできない。

○ボールおもちゃ等を一つのみリンクに持ち込むことは許されるが手に持つことは許されず競技リンクに入る前に犬に見えないところ (犬の反対側のポケット等) に保持し音を鳴らすことも禁止される。競技前後リンク外で使用することは許されるが他犬に影響しないよう配慮する必要がある。

○特別な理由がない限り首輪は一つとし、複数の首輪、胴輪との併用は禁止する。ノミ除け首輪等薬品の装着は許されるが首輪にぶら下がる形のタグ等は禁止。スパイク、電気ショック首輪の使用は禁止。皮製や布製首輪等の裏が見えない物、或いは毛等で見えない場合は審査員または要員がチェックすることがある。

○各作業とも喜々とした態度での作業が望ましく、緩慢な作業、集中力を欠く作業、また過敏な態度や落ち着かない作業等は減点の対象となる。

○各作業とも 1 動作 1 声視符が許されるが視符は声符発声の長さを超えてはならない。肩を入れる・上半身をひねる・屈む等は体符として減点の対象となる。また 1 声視符は一つの言葉として認識される必要がある。名前の発声もコマンドとして一つであれば構わない。例:「スワレマテ」○、「スワレ、マテ」×、「スワーレ」○、「スワ〜〜レ」×、「ポチコイ」○、「ポチ、コイ」×

○1 声視符ですべき動作を 3 声符必要になった場合得点の半分を失う。目的の動作以外の補助的声視符は程度により減点される。目的の指示が 4 声符以上は 0 点となるが継続するかどうかは審査員の判断とする。

○脚側行進は指導手主導で自然な歩き方で真っすぐ歩く必要があり犬に合わせて歩くことは減点の対象

となる。手の位置は自然に振っていれば犬に当たらないよう犬側に開いてもかまわない。

○脚側行進のコーナーを指導手は直角に屈折するべきであり丸く曲がったり犬を押すような脚側行進は減点の対象となる。

○脚側行進の速度変化は犬の速度が明確に変わる必要がある。

○脚側行進中、犬は指導手の左側を一定の位置を保ちながら指導手に集中し作業することが望ましいが必要以上に顔を上げながら行う必要はなく犬種の特徴が考慮される。身体的理由により右側に付ける事も申告により審査員に許可される。

○各作業、指導手の方向と犬の向きは指導手に近く並行であるのが理想であり犬が離れた、密着しすぎる、指導手と平行でない作業等は程度により減点の対象となる。

○行進中作業（停座）において指導手の歩度が変わらないよう歩くのが理想とする。**歩度とは指導手のスピードであり足運びのピッチではない。**

○犬が姿勢を維持する科目で指導手が犬の元へ戻る時、指導手から見て犬の右側を通り後ろを回って犬の右側面に付く。通過する犬との距離は50cm位までが望ましいが後方へは1～2m程度許される。

○犬が姿勢を維持する課目において、姿勢を実行始めてから足を動かすことや地面の臭いを嗅ぐ等は減点の対象となるが、環境の中で顔を向けたり体重の移動程度は減点の対象とならない。

○リンク内で首輪によるショックは禁止とし、その行為は審査員により注意され実行中課目もしくは次の課目が0点となる。再度繰り返される場合は失格としそれまで獲得した点も失う。犬の身体を直接手や足を使って行う姿勢変更等も虐待とみなされることがある。

○会場内で虐待行為があった場合は作業中でなくとも出場の権利を失い作業後であった場合獲得した点も失う。首輪等による強いショック等も虐待とし失格することがある。

○人や犬に対し攻撃的な犬や極端に怖がる犬など稟性に明らかな問題がある犬は参加できない。会場で判明した場合は失格となる。

この服従競技規定は2022年 mayor's cup の規定であり霧ヶ峰ドッグ倶楽部の固定された規定ではありません。今後の開催に於いて大きく変更される可能性もあるので規定をよくお読みください。